



私は「きょうはあなたのこと
を考え、祈っています」と言
い送り出した。

その日、遅く帰って主人は
「祈ることは、その人と共に
あることもかもしれないね」と
言って、喜んでくれた。

婚姻の秘跡を生きる

藤屋 紀子

にできる」とは、そのことを
考え、イエススの前にひざま
ずくこと、それだけでいいの
ではないかと思うようになった。

「そこで二人は、父母を離
れて一体となる」という一致

離れていても祈り合う時、お
互いは共にあり、より深く関
係し、息づいた存在であるよ
うな気がする。祈り合う夫
婦、祈り合う家族は決して離
れることはないと思信するこ
とが出来ようになった。

朝起きるなり主人は「きよ
うは会社に行きたくないな
あ」と言った。
小さな組合とはいえ、委員
長をし、数々の労使紛争をか
かえ、立場の違いを理解しよ
うとする前に、個人的な憎し
みとして返ってくる職場の勢
団気に、心身共に疲れている
ことはよくわかっていたが、
私にも何をどうしたらよいか
わからなかった。

出勤前、二人で祈ったあと

以前の私は、仕事のごとは
主人の領域。私は家のごとを
きちんとしていければいい、と
考えていたし、仕事や組合の
ことに口出しすべきではない
とも思っていた。しかし、主
人が苦しい立場にある時、私

への道は、お互いが持ってい
るすべてのものを分かち合い
共有することから始まるよう
な気がする。——苦しみも、
喜びも、失敗も成功も、お金
も、体も、祈りも、イエスス
・キリストも——時や場所が

結婚の日に受けた婚姻の秘
跡の誓約は、結婚して十七年
にして、やっと私たちの中で
それが何であるか、少しずつ
神様はわからせ始めて下さ
ったような気がする。日々、
お互いがこの秘跡の中に生
き、この秘跡をさすけ合い、
家族で祝うことが出来るよ
う、主婦である私は、家庭を
整え、備えたいと思う。

(主婦)